

令和元年度 学校評価 児童・保護者アンケート結果と対応 <質問項目別>

項	・上の枠は質問内容（保護者へ、児童へ） ・下の枠の「○」は、結果 「☆」が、その対応など
1	<p>学校は、地域の自然・文化・産業や人材を活用した学習に積極的に取り組み、地域のよさを伝えている。（保護者）</p> <p>地域のことを調べたり、地域の人に教えてもらったりする勉強をしている。（児童）</p>
	<p>○ 「思う」「やや思う」を合わせた割合は、保護者が97%、児童が76%であり、前年度とほぼ同じ値である。</p> <p>☆ 今後も積極的に地域人材を活用した授業を積極的に取り入れ、地域のよさを児童が実感し、地域ぐるみで中川っ子の育成を図るような授業を展開していくことを継続していきます。</p>
2	<p>お子さんは、学年に応じた時間（1・2年30～50分、3・4年50～70分、5・6年70～90分）家庭学習を行っている。（保護者）</p> <p>毎日、忘れずに宿題をし、1・2年30～40分、3・4年50～70分、5・6年70～90分、家で勉強している。（児童）</p>
	<p>○ 保護者の「思う」「やや思う」を合わせた割合は、前年度とほぼ同様の値であるが、児童の割合が13%減少している。</p> <p>☆ 家庭と連携して、実態に応じた柔軟な宿題の量と質を確保し、学習した内容が定着するようにしていきたいと思います。</p>
3	<p>学校は、指導方法（ICT活用や話し合い活動「学びあい学習」）を工夫し、一人一人に応じた家庭学習を行い、学力の向上に努めている。（保護者）</p> <p>勉強でパソコンや電子黒板を使ったり、わからないことを友達に聞いたり、わかることを友達に教えたりしている。（児童）</p>
	<p>○ 「思う」「やや思う」を合わせた割合は、児童、保護者とも80%以上である。前年度と比較すると、保護者の「思う」の割合が7%高く、児童の「思う」の割合は、9%減少している。</p> <p>☆ 「学びあい学習」が定着していますが、前年度と比較して児童の肯定的な割合（「思う」「やや思う」）が低くなっています。学年の発達段階や児童の実態に応じた効果的な授業改善に努めてまいります。</p>
4	<p>お子さんは、楽しく学校に通っている。（保護者）</p> <p>学校に来るのが楽しい。（児童）</p>
	<p>○ 前年度と同様、保護者の「思う」「やや思う」を合わせた割合は95%以上、児童は85%以上と高い割合である。</p> <p>☆ 今後も、児童が学校に来るのが楽しいと感じるよう、「わかる授業」「支え合う仲間づくり」「健やかな体づくり」に努めたいと思います。</p>
5	<p>お子さんは、学校で決められた役割（係や当番活動）や仕事を進んでしている。（保護者）</p> <p>係活動や委員会活動、当番活動、掃除を一生懸命している。（児童）</p>
	<p>○ 「思う」「やや思う」を合わせた割合は、児童、保護者とも約90%である。保護者も児童も「思う」の割合が、ほぼ同様の値である。</p> <p>☆ 係や当番活動、清掃等は、人に役立つことを実感できる時間であるため、やり遂げた児童を称揚して充実感を味わわせるとともに、一層の充実を図っていきます。</p>
6	<p>お子さんは、人を思いやったり、美しいものに心を動かされたりするなど心豊かに育っている。（保護者）</p> <p>人に優しくしたり、美しいものに心を動かされたりすることがある。（児童）</p>
	<p>○ 保護者、児童とも前年度同様、よい結果である。しかし、保護者と児童の割合の差が、前年度と同様で児童の値が保護者よりも約15%低く、その差が縮まっていない。</p> <p>☆ 今後とも心に響く体験活動を積み重ねることを通して、美しいものや素晴らしいことに心を動かされるよう児童の情操を高めていきます。</p>
7	<p>お子さんは、学年や異年齢集団活動（縦割り班活動）を通じて、友達と仲よくしようとする態度が身に付いている。（保護者）</p> <p>学級や縦割り班活動で、友達と仲よく生活している。（児童）</p>
	<p>○ 前年度同様、保護者も児童も結果である。「思う」の割合は、保護者よりが児童より18%低くなっているが、前年度よりも「思う」の割合の差が縮まってきている。</p> <p>☆ 今後も異年齢集団での活動を積極的に行うとともに、地域行事に参加する働きかけを継続していくことにします。</p>
8	<p>お子さんは、挨拶や場に応じた言葉遣いが身に付いている。（保護者）</p> <p>挨拶や場・人に応じた言葉遣いをしている（児童）</p>
	<p>○ 前年度よりも、保護者も児童も肯定的な割合（「思う」「やや思う」）が80%以上と高くなっている。</p> <p>☆ 今後も、家庭・地域における挨拶や場や人に応じた言葉遣いができるよう、機会をとらえて指導をしていきます。</p>

9	<p>お子さんは、積極的に外遊びをしている。(保護者) NSCなどの体力づくりに進んで取り組んでいる。(児童)</p>
	<p>○ 前年度よりも保護者と児童の「思う」の割合が、15%縮まった。児童、保護者とも前年度とほぼ同じ割合である。 ☆ 今後も、家庭・地域における体力づくりが一層向上するよう継続して働きかけを行っていきます。</p>
10	<p>歯・口の健康をはじめとする健康教育は、お子さんの身につけている。(保護者) 歯・口や体の健康のことを考え、歯みがきなどをきちんとしている。(児童)</p>
	<p>○ 前年度よりも保護者と児童の「思う」の割合の差が、6%広がっている。全体的な傾向として、肯定的な割合が、保護者も児童も低くなってきている。 ☆ 家庭と学校が連携して、健康教育活動を中川小の伝統的な取組として継続して取り組んでまいります。</p>
11	<p>学校は、登下校や変災時の避難訓練等、児童の安全確保に積極的に取り組んでいる。(保護者) 火事や地震、事故などがあつた時、どうすればよいか分かり、避難訓練を熱心にした。(児童)</p>
	<p>○ 児童、保護者とも肯定的な割合(「思う」「やや思う」)が90%以上と非常に高い。 ☆ 今年度同様、次年度も月1回程度さまざまな想定避難訓練を実施することで、児童の防災意識を高め、いざという時には自分の命を守る行動をとることができるようにしたいと思ひます。</p>
12	<p>教職員と保護者には、協力し合つてお子さんを育てようとする関係ができていふ。(保護者) 先生を信頼し学校生活を送り、家族と学校の話をよくする。(児童)</p>
	<p>○ 保護者、児童とも前年度とほぼ同様の傾向であり、肯定的な割合(「思う」「やや思う」)は80%以上である。しかし、児童の肯定的な割合が9%低下した。 ☆ 保護者と学校が連携をより密にして、PTA活動の改善等を行つたりするなど、今後も学校と保護者が共通の課題意識を持って児童の健全育成に取り組まふ。</p>
13	<p>PTA活動は、児童の健全な成長と会員の親睦を図るものとなつていふ。(保護者) 学級PTA(親子活動など)や学団PTA(子ども会行事など)の活動は楽しい。(児童)</p>
	<p>○ 児童、保護者とも、肯定的な割合(「思う」「やや思う」)は、85%以上である。前年度よりも、児童と保護者の肯定的な割合の差が、10%縮まった。 ☆ 保護者の肯定的な割合が高まるよう、PTA活動の見直しや改善を行い、児童の健全な成長と会員の親睦を図つていくようにしたいと思ひます。</p>
14	<p>学校行事の内容や回数は、子どもにとって適切である。(保護者) 学校の行事は楽しく、回数もよい。(児童)</p>
	<p>○ 昨年度と同様、肯定的な割合(「思う」「やや思う」)は、児童、保護者とも80%以上である。保護者の「思う」の割合が、前年度より約15%増加した。 ☆ 今後も、各行事を通して児童に身に付けさせたい力を明確にしつゝ、児童に有意義な活動を精査し、地域と連携して実施していくようにしたいと思ひます。</p>
15	<p>学校は、積極的に学校の様子を公開し、開かれた学校づくりに努力していふ。(保護者) 学校だよりや学級だよりなどお知らせのプリントはきちんと家の人に見せていふ。(児童)</p>
	<p>○ 保護者の肯定的な割合(「思う」「やや思う」)は、前年度と同様である。しかし、児童の「思う」の割合が、約10%と減少した。 ☆ 今後も、毎日の学校ホームページの更新・充実、学校だよりの発行、参観日等を通じて、今後とも開かれた学校づくりに努めていふ。</p>
16	<p>お子さんは、該当学年の学習内容が身につけていふ。(保護者) この学年で勉強していふことがわかつていふ。(児童)</p>
	<p>○ 保護者、児童とも肯定的な割合(「思う」「やや思う」)は、前年度と同様である。しかし、児童の「思う」の割合が、約20%減少した。 ☆ 児童の肯定的な割合が高まるよう、授業改善に継続して取り組み、家庭と連携を密にして、3学期の各学年の学習内容の定着に努めていふと思ひます。</p>
17	<p>お子さんは、教職員からの体罰を訴えることなく生活していふ。(保護者) 先生からたたいたり、けつたりされないで生活していふ。(児童)</p>
	<p>○ 児童、保護者とも、昨年度同様ほとんどよい結果である。 ☆ 今後も体罰を絶対に行わない体制づくり、教職員への指導を徹底するとともに、家庭と連携して、問題の早期発見、対応に努めていふ。</p>
18	<p>NSCの活動(回数、時間)は、子どもたちにとって適切である。(保護者) NSCの活動の回数や活動は、ちょうどよい。(児童)</p>
	<p>○ 保護者、児童の肯定的な割合(「思う」「やや思う」)は前年度よりも増加した。しかし、保護者と児童の差は、約20%と前年度より広がつた。 ☆ 「なかがわ地域未来塾」の実施など、児童への負担を少なくするようNSC活動内容を改善しながら実施していふ。</p>